

滋賀県内における後発医薬品の使用状況調査結果

平成 25 年 (2013 年) 2 月 22 日
滋賀県健康福祉部医務薬務課

調査目的

患者や医療関係者が安心して後発医薬品を使用することができるよう、平成 20 年度よりその方策を検討し、県民向けリーフレットや後発医薬品採用マニュアルを作成、配布し、普及啓発に努めてきたところである。

今般、県内における後発医薬品の使用状況を把握することを目的としてアンケート調査を実施した。

調査方法

- (1)対象施設 : 県内全病院 (59 施設)
県内全薬局 (521 施設)
- (2)調査方法 : 郵送によるアンケート調査
- (3)実施時期 : 平成 24 年 10 月

回答率

- (1)病 院 : 91.5% (54 施設)
- (2)薬 局 : 78.7% (410 施設)
(非保険薬局 9 施設を含む)

結果

(1)後発医薬品の採用状況について

病 院 : 1 病院あたりの後発医薬品の採用品目数は、平成 22 年 10 月と比べて、119 品目から 127 品目になり、採用医薬品に占める後発医薬品の割合は、13.3%から 13.7%と 0.4 ポイント微増している。

薬 局 : 1 薬局あたりの後発医薬品の採用品目数は、平成 22 年 10 月と比べて、160 品目から 200 品目になり、採用医薬品に占める後発医薬品の割合は、16.2%から 18.7%と 2.5 ポイント増加している。

後発医薬品の採用品目数が 100 品目に満たない薬局は 14.8% (58 施設)、300 品目を超える薬局は 15.6% (61 施設) であった。

(2)後発医薬品の採用方針について

- 病 院 : 後発医薬品を「積極的に採用している」と回答した病院は38.9%であった。
「積極的ではない」、「どちらとも言えない」理由としては、「供給に不安がある」、「メーカーの情報提供が不足している」、「品質に不安がある」、「メリットが少ない」の回答が多く見られた。
- 薬 局 : 後発医薬品を「積極的に採用している」と回答した薬局は68.8%であった。
「積極的ではない」、「どちらとも言えない」理由としては、「患者の希望があまりない」、「価格差が小さい」、「負担が多い」の回答が多かった。

(3)後発医薬品への変更可処方、一般名処方への取り組みについて

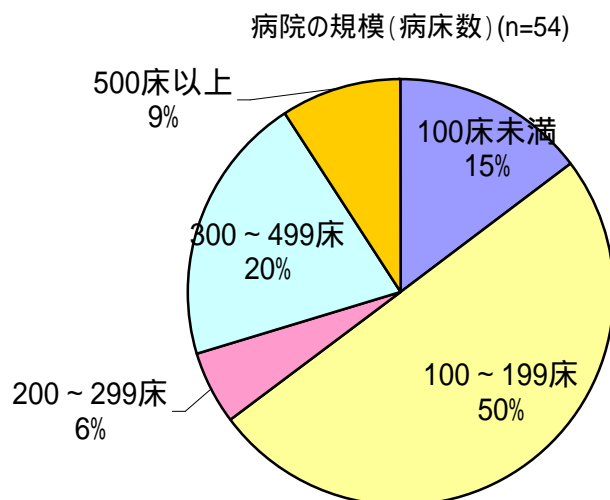
- 病 院 (回答数：54) : 病院における1週間の院外処方箋について、後発医薬品への変更可能処方せんの全処方せん枚数に占める割合は、38.6%であり、また、一般名処方の処方箋の割合は、5.3%であった。
- 薬 局 (回答数：374) : 薬局における1週間の応需処方箋について、後発医薬品への変更可能処方せん枚数は、全処方せん枚数に占める割合は、60.7%であり、また、一般名処方の処方箋の割合は、26.0%であった。

(4)病院における後発医薬品の使用状況調査(別添1)

(5)薬局における後発医薬品の使用状況調査(別添2)

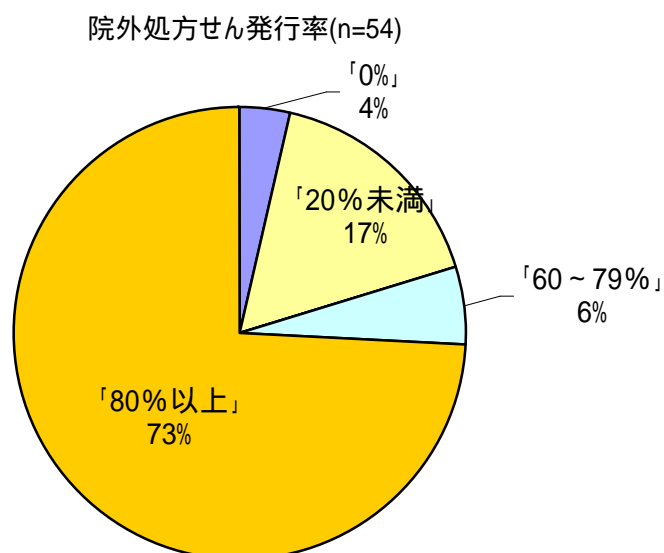
病院における後発医薬品の使用状況調査

問1 貴病院の病床数をお尋ねします。(54施設回答)



100床未満	100~199床	200~299床	300~499床	500床以上
8	27	3	11	5

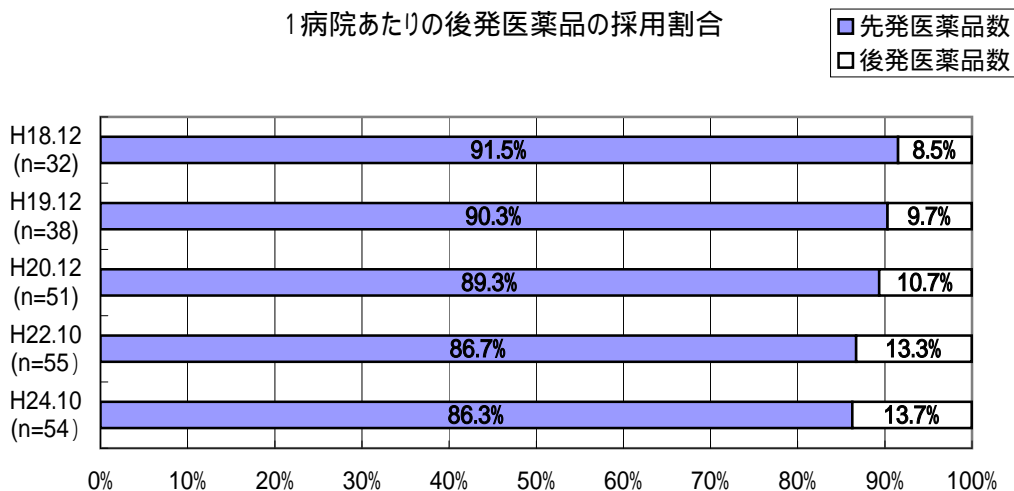
問2 貴病院の院外処方せん発行率をお尋ねします。(54施設回答)



0%	20%未満	20~39%	40~59%	60~79%	80%以上
2	9	0	0	3	40
3.7%	16.7%	0.0%	0.0%	5.6%	74.1%

問3 貴病院で採用している医薬品の全品目数およびその内の後発医薬品の品目数をお尋ねします。

1病院あたりの後発医薬品の採用割合



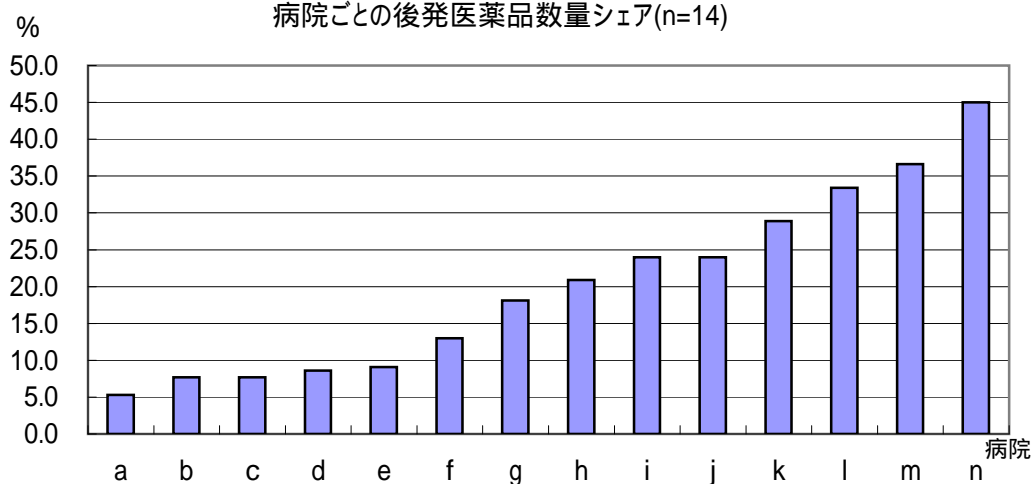
1施設あたりの平均後発医薬品採用品目数の推移

調査時期(年月)	H18.12	H19.12	H20.12	H22.10	H24.10
回答数(施設)	32	38	51	55	54
全医薬品数(品目)	898	850	882	899	924
後発医薬品数(品目)	76	82	94	119	127
後発医薬品割合 (%)	8.5	9.7	10.7	13.3	13.7

問4 貴病院における数量ベースでの後発医薬品のシェアを把握していますか。(54施設回答)

はい	いいえ
14	40
25.9%	74.1%

病院ごとの後発医薬品数量シェア(n=14)

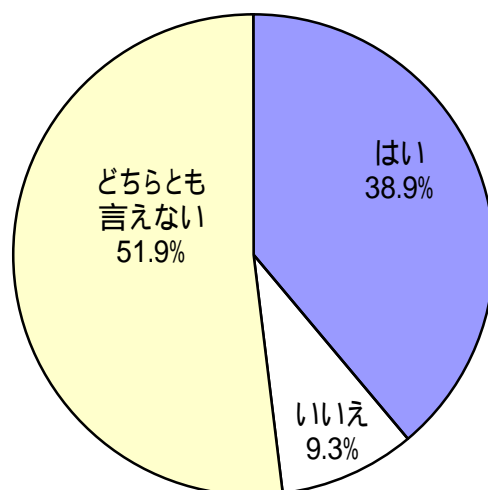


数量ベースシェア

~ 5%	5% ~ 10%	10% ~ 15%	15% ~ 20%	20% ~ 25%	25% ~ 30%	30% ~
0	5	1	1	3	1	3

問5 貴病院では、後発医薬品を積極的に採用していますか。(54施設回答)

後発医薬品の採用に積極的か(n=54)

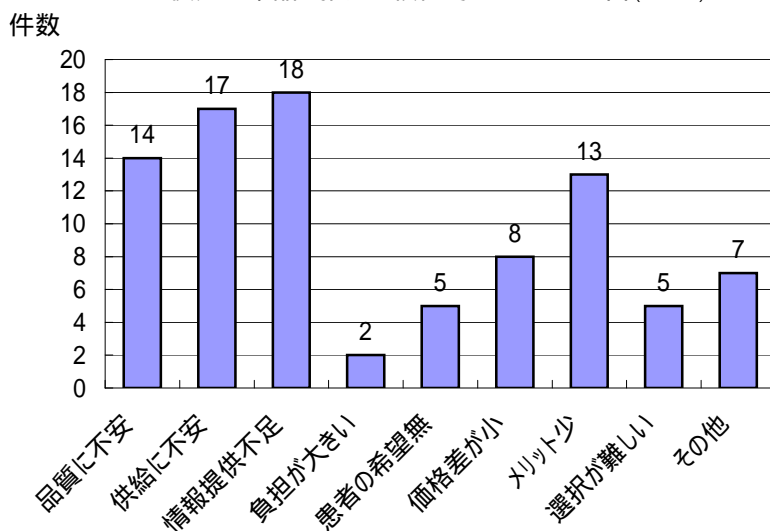


はい	いいえ	どちらとも言えない
21	5	28
38.9%	9.3%	51.9%

問6 問5で「2. いいえ」「3. どちらとも言えない」と回答した病院にお尋ねします。

後発医薬品の推進に積極的になれない理由は何ですか。【複数回答可】(33施設回答)

後発医薬品の推進に積極的になれない理由 (n=33)



理由	施設数	割合 (%)
品質に不安	14	15.7
供給に不安	17	19.1
情報提供不足	18	20.2

負担が大きい	2	2.2
患者の希望無	5	5.6
価格差が小	8	9.0
メリット少	13	14.6
選択が難しい	5	5.6
その他	7	7.9

その他

医師の方針がある。精神科なので患者のこだわりがある。

散剤の後発品が少ない。

特殊な薬剤が多く、血中濃度の測定等をやり通す必要に迫られるため。

院内で後発品の了解を得にくい。

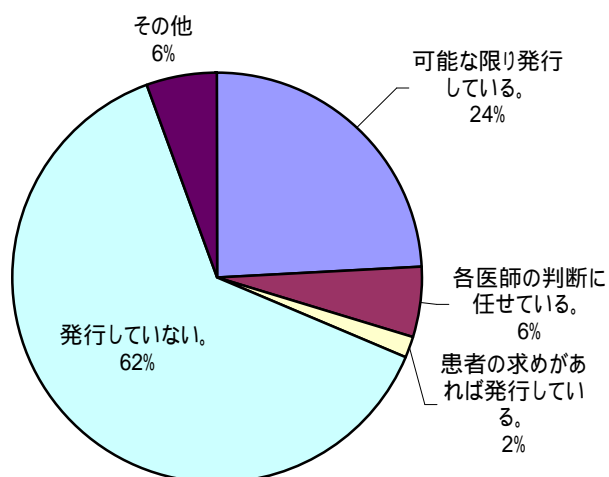
販売名と一般名の名称がかけ離れている場合、周知が困難である。

医師の中には後発品を使用したくないという意見がある。

医薬品名変更によるリスクが高まる。

問7 貴病院では一般名処方処方箋を発行していますか。(54施設回答)

問7 一般名処方の処方箋を発行しているか(n=54)



可能な限り発行している。	13	24.1%
各医師の判断に任せている。	3	5.6%
患者の求めがあれば発行している。	1	1.9%
発行していない。	34	63.0%
その他	3	5.6%

その他

特定の品目のみ発行可能としている。

発行するつもりであったが、現時点では周知徹底してまで一般名処方するメリットがない。

問8 貴病院で平成24年10月25日(木)から10月31日(水)まで1週間に
交付した院外処方せん枚数をお尋ねします。(54施設回答)

	総計(枚)	平均(枚)	全処方箋に 対する割合
交付した全処方箋枚数	42,663	790	100.0%
後発医薬品への変更可の処方箋枚数	16,484	358	38.6%
一般名処方の処方箋枚数	2,261	43	5.3%

その他の意見等

一般名処方については、近日中に交付開始

規模が大きい病院では、処方箋料の加算が2点では一般名処方は進まない。5点にするか、後発品を記載することでの加算が必要。

病院の後発品採用については、入院初日のみの加算ではなく、処方箋発行毎に加算するようにしてほしい。

後発品に切り替えると「効果がなかった」「違和感がある」などの患者からの意見により、先発品戻るケースがある。

指導、説明にも問題があると思うが、公的な面から問題がないことをアピールしてほしい。(本当に問題がないなら。)

後発品に不信感を持っている医師がまだまだおられる。後発品に有害事象が生じた場合、保証など対応を心配されている。後発品は有効性、安全性を明確にすべきである。

後発品の販売名がややこしかったり、長かったりと日常的に不便なことが多い。

後発品メーカーの選択や薬に対するサポート体制など数多くの問題がある。メーカー選択にあたっては、周辺病院や院外薬局の情報も必要である。

後発メーカーの整備、フォロー体制の確立

転院してくる患者の持参薬に新薬が含まれているため、先発品の使用が増えている。

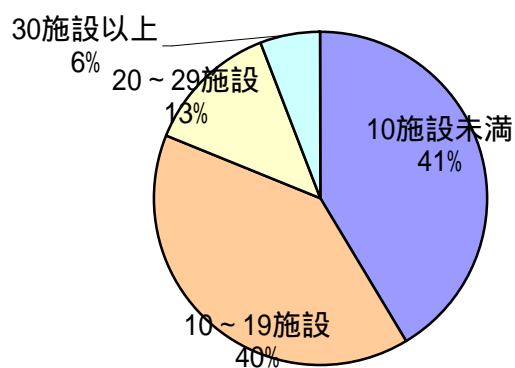
メーカーからの情報提供が不十分

薬局における後発医薬品の使用状況調査

問1 貴薬局で応需している処方せん発行医療機関の施設数をお尋ねします。(398施設回答)

ア 病院

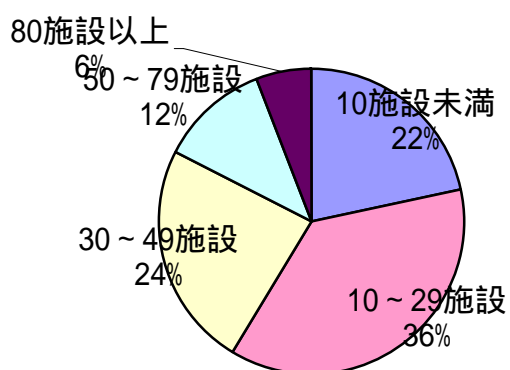
応需している病院数 (n=398)



応需先病院数	10施設未満	10～19施設	20～29施設	30施設以上
施設数	165	158	52	23

イ 診療所

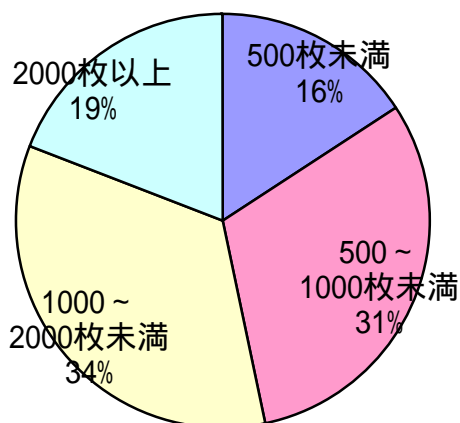
応需している診療所数 (n=395)



応需先診療所数	10施設未満	10～29施設	30～49施設	50～79施設	80施設以上
施設数	86	146	94	46	23

問2 1ヶ月あたりの処方せん枚数をお尋ねします。(401施設回答)

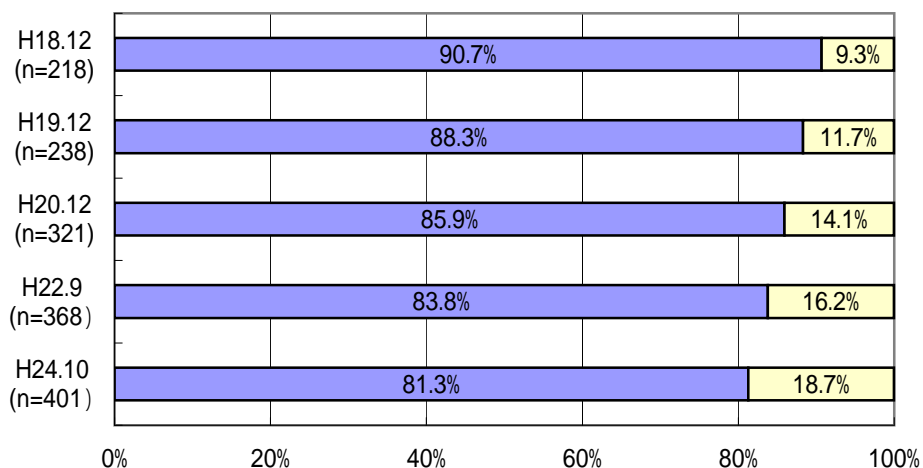
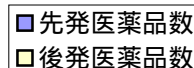
1ヶ月あたりの処方せん枚数(n=401)



処方せん枚数	500枚未満	500 ~ 1000枚未満	1000 ~ 2000枚未満	2000枚以上
施設数	63	124	137	77
割合 (%)	15.7%	30.9%	34.2%	19.2%

問3 貴薬局で採用している医薬品の全品目数およびその内の後発医薬品の品目数をお尋ねします。

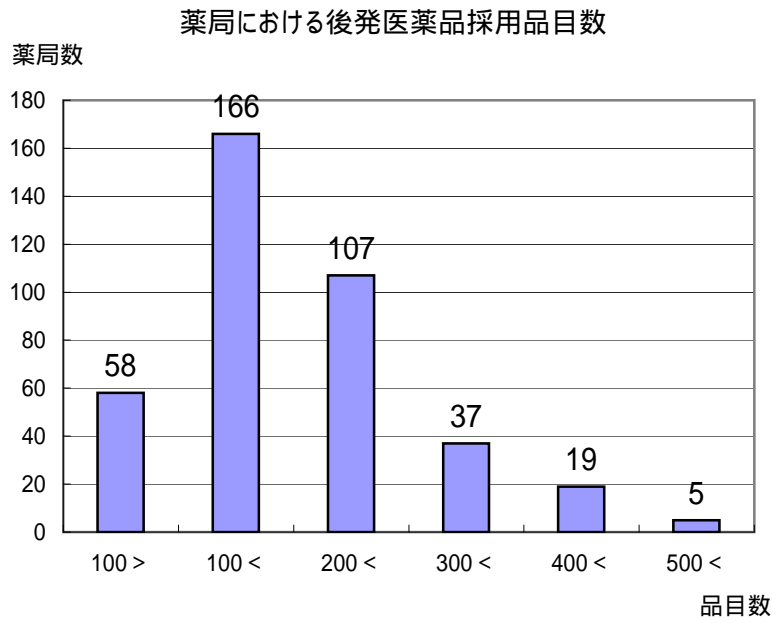
1薬局あたりの後発品採用割合



1施設あたりの平均後発医薬品採用品目数の推移

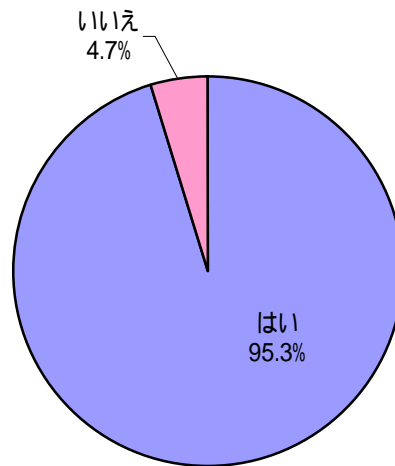
調査時期(年月)	H18.12	H19.12	H20.12	H22.9	H24.10
回答数(施設数)	218	238	321	368	401
全医薬品数(品目)	863	876	951	988	1069
後発医薬品数(品目)	80	102	134	160	200
後発医薬品採用割合 (%)	9.3	11.6	14.1	16.2	18.7

後発品 採用品目数	薬局数
100 >	58
100 <	166
200 <	107
300 <	37
400 <	19
500 <	5
平均値	200
中央値	180



問4 貴薬局における数量ベースでの後発医薬品のシェアを把握していますか。

薬局における数量ベースでの把握(n=401)

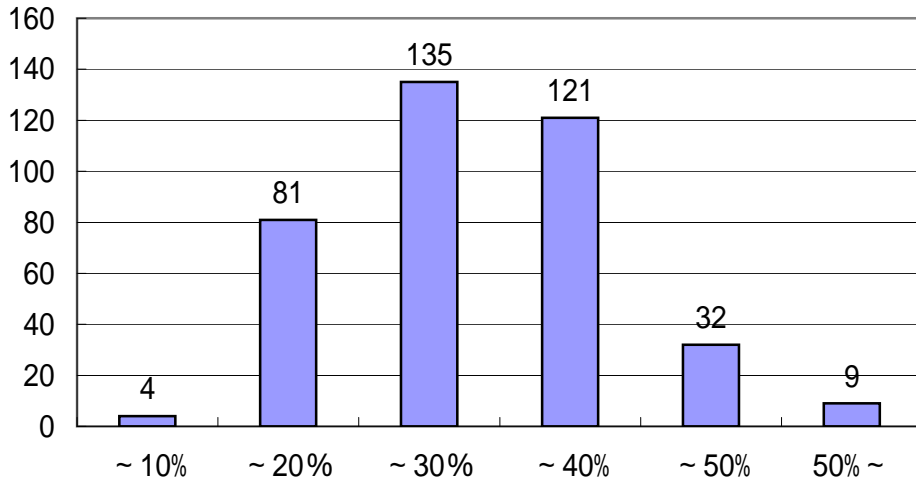


はい	いいえ
382	19
95.3%	4.7%

(処方せん数0の施設は除く)

(薬局数)

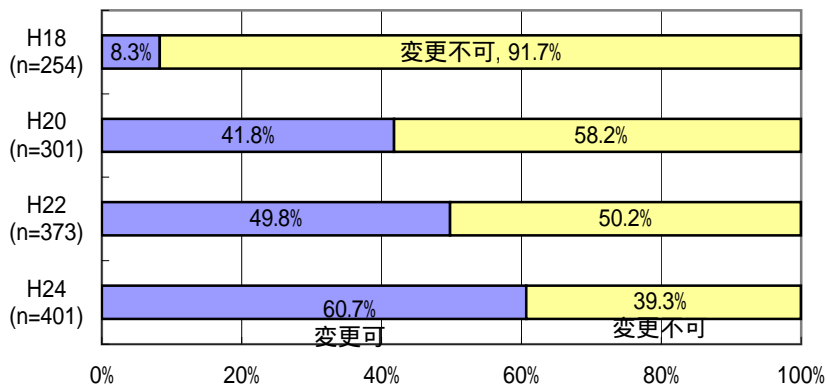
数量シェア(n=382)



問5 貴薬局で平成24年10月25日(木)から10月31日(水)までの1週間に応需した処方せんについてお尋ねします。

	平成24年10月の1週間 (401施設)
応需した全処方せん枚数	338枚
一般名処方方の処方せん枚数 (1品目でも一般名が記載されていた場合を含む。)	88枚 (26.0%)
後発医薬品への変更可の処方せん枚数	205枚 (60.7%)
上記のうち、実際に後発医薬品に変更した処方せん枚数 (1品目でも変更した場合を含む。)	66枚 (32.2%)

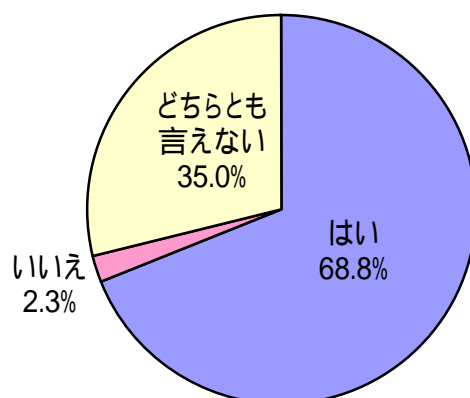
問5 応需処方せんにおける後発医薬品への変更可処方せんの割合



	H24 (n=401)	H22 (n=373)	H20 (n=301)	H18 (n=254)
変更可	60.7%	49.8%	41.8%	8.3%
変更不可	39.3%	50.2%	58.2%	91.7%

問6 後発医薬品への変更可の処方せんを受け付けた場合に、後発医薬品の説明を積極的に行っていますか。(400施設回答)

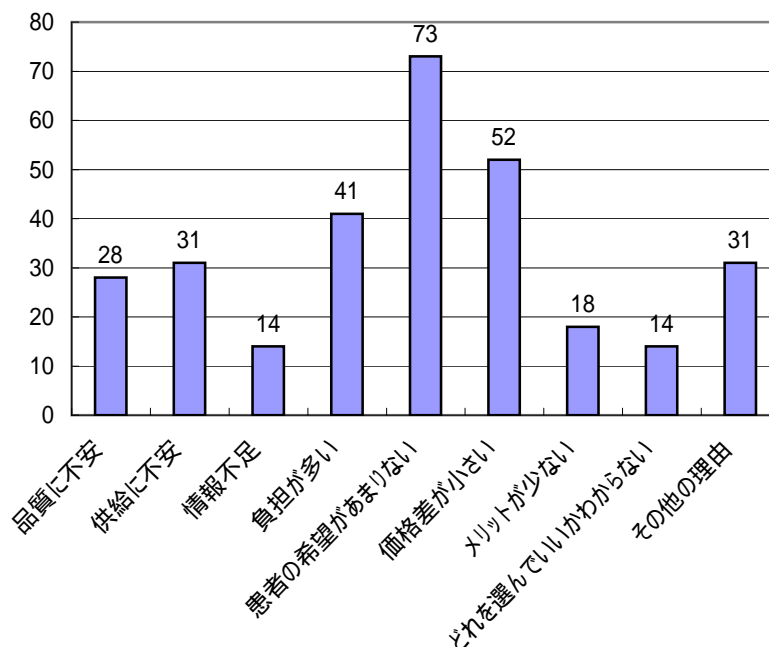
後発医薬品への説明を積極的に行っているか(n=400)



はい	いいえ	どちらとも言えない
275	9	116
68.8%	2.3%	29.0%

問7 問6で「2.いいえ」「3.どちらとも言えない」と回答した薬局にお尋ねします。後発医薬品の推進に積極的になれない理由は何ですか。【複数回答可】(247施設回答)

件数 問7 後発医薬品の推進に積極的になれない理由(n=125)



項目	施設数 (複数回答)	割合 (%)
品質に不安	28	9.3%
供給に不安	31	10.3%
情報不足	14	4.6%
患者への説明など負担が多い	41	13.6%

患者の希望があまりない	73	24.2%
価格差が小さい	52	17.2%
メリットが少ない	18	6.0%
どれを選んでいいかわからない	14	4.6%
その他	31	10.3%

【その他の理由】(複数あったものを記載)

在庫品目が増え、在庫費用が増加する。(7件)

後発品の使用に積極的でない医師がおられる。(2件)

後発品への変更不可の診療所が多い。(2件)

患者によっては説明しても理解できない方もある。(2件)

自己負担のない患者への説明が困難である。(5件)

【その他の意見】(複数あったものを記載)

メーカー指定した後発品を「変更不可」として処方されるとたいへん困る。同一医薬品で複数メーカーの後発品を在庫する必要が生じてしまう。(24件)

変更不可の処方箋が多く、後発品への変更率が上がらない。(9件)

自己負担のない方は、先発品を選択されることが多い。(8件)

自己負担のない方は、積極的に後発品を処方するようにすれば、後発品が増えると思う。(8件)

一般名処方をもっと増加すれば、後発品の使用促進につながると考える。今後さらに、一般名処方を普及させるべきである。(7件)

先発品は良く、後発品は良くないと思っている医療従事者や患者の方がいる。(5件)

長期に渡って同一医薬品を服用されている方は、後発品への変更の不安が高く、変更されないことが多い。(3件)

後発品は品質が良くないものがある。(3件)

同一医薬品について、先発品と複数の後発品をそろえる必要があり、在庫負担が大きい。(2件)

精神科で処方される医薬品、パップ剤の後発品への変更は難しい。(2件)

1つの先発品に対して、後発品を発売するメーカーが多すぎる。(2件)

先発品との適応が異なるものがあり、薬局側では詳細が解らないことがある。(2件)